



1979年(昭和54年) カプセルホテル誕生

明治 大正 昭和 平成

「寝るだけ」から「楽しむ」も

「この新しい個室空間をどう使いこなすか……。これこそ一人旅の男のセンスだ」。宇宙船のようなカプセルが描かれたポスターに言葉が躍る。

1979年2月、大阪・梅田駅近くに開館した世界初といわれるカプセルホテル「カプセル・イン大阪」の広告だ。

「70年に大阪万博が開かれ、経済がよく回る時代だった。街は不夜城。皆、よく働き、よく遊んでいた」。開発に携わった中野佳則さん(69)は振り返る。当時、24時間営業のサウナの廊下やラウンジの床は、寝入る客でぎっしり。見かねた中野さんらは「働く人の癒やしや場所を提供し、夢のある未来を感じるものを作りたい」と考えた。

思い浮かんだのが、建築家の黒川紀章さんが大阪万博で発表した。だが、出荷数は91年をピークにバブル崩壊とともに激減。事業撤退の声も出た。

「お客さんが使う限り続けないといけない。一種の社会インフラだ」と深澤社長は反対、仮眠室向けカプセルの製造も始め、細々と続けた。

苦境に陥ったカプセルホテルを救ったのは女性客と外国人客だ。背景には残業や出張など女性の働き方の変化や一人旅の増加がある。格安航空会社の登場や、インターネットで海外からも簡単に予約できるようになったことも影響

した。2010年ごろから、従来の「安くて寝るだけ」のイメージを覆す多様なカプセルホテルが登場し始めた。デザイン性が高いのが、09年に京都に1号店がオープンした「ナインアワーズ」だ。

従来の箱形と違う、柔らかな丸いフォルムのカプセルはテレビもなくシンプルな造り。「シャワー1時間、眠る7時間、身支度の1時間の計9時間。コンパクトな滞在時間だからこそ」といってサービスをアピールする。

かつて「ウサギ小屋」のようなホテルと揶揄されたカプセルホテルは、いまやSNSを通じて世界に発信、新たな客を呼び込む。

明治大学情報コミュニケーション学部南後由和准教授(社会学)は「カプセルの使われ方は変化している。昔は終電を逃した郊外のモーレツ社員、今は女性や外国人も対象にして最低限かつ高機能の施設を提供し、時間単位の利用も可能だ。働き方や組織のあり方を反映し、ライフスタイルも提案していたからこそ射程が長い」と話す。また、「狭小のひとり空間にあらゆる装置を効率よく詰め込む。ひとりカラオケや漫画喫茶もカプセルホテルの副産物といえるのでは」と指摘する。

「この新しい個室空間をどう使いこなすか……。これこそ一人旅の男のセンスだ」。宇宙船のようなカプセルが描かれたポスターに言葉が躍る。1979年2月、大阪・梅田駅近くに開館した世界初といわれるカプセルホテル「カプセル・イン大阪」の広告だ。「70年に大阪万博が開かれ、経済がよく回る時代だった。街は不夜城。皆、よく働き、よく遊んでいた」。開発に携わった中野佳則さん(69)は振り返る。当時、24時間営業のサウナの廊下やラウンジの床は、寝入る客でぎっしり。見かねた中野さんらは「働く人の癒やしや場所を提供し、夢のある未来を感じるものを作りたい」と考えた。思い浮かんだのが、建築家の黒川紀章さんが大阪万博で発表した。だが、出荷数は91年をピークにバブル崩壊とともに激減。事業撤退の声も出た。「お客さんが使う限り続けないといけない。一種の社会インフラだ」と深澤社長は反対、仮眠室向けカプセルの製造も始め、細々と続けた。苦境に陥ったカプセルホテルを救ったのは女性客と外国人客だ。背景には残業や出張など女性の働き方の変化や一人旅の増加がある。格安航空会社の登場や、インターネットで海外からも簡単に予約できるようになったことも影響した。2010年ごろから、従来の「安くて寝るだけ」のイメージを覆す多様なカプセルホテルが登場し始めた。デザイン性が高いのが、09年に京都に1号店がオープンした「ナインアワーズ」だ。従来の箱形と違う、柔らかな丸いフォルムのカプセルはテレビもなくシンプルな造り。「シャワー1時間、眠る7時間、身支度の1時間の計9時間。コンパクトな滞在時間だからこそ」といってサービスをアピールする。かつて「ウサギ小屋」のようなホテルと揶揄されたカプセルホテルは、いまやSNSを通じて世界に発信、新たな客を呼び込む。かつて「ウサギ小屋」のようなホテルと揶揄されたカプセルホテルは、いまやSNSを通じて世界に発信、新たな客を呼び込む。



1979年開業当時のカプセル・イン大阪 大阪府北区、コトブキシーティング提供

- カプセルホテルに関連する動き
- 1970年 大阪万博開催。立体格子の中に六面体のカプセルを組み合わせた建築「タカラ・ビューティリオン」を黒川紀章さんが設計
- 79年 初のカプセルホテル「カプセル・イン大阪」がオープン。コトブキ(現・コトブキシーティング)が繊維強化プラスチック(FRP)製のカプセルを製造
- 2009年 京都に「ナインアワーズ」1号店がオープン。18年5月までに計7店舗
- 10年 「安心お宿」の1号店が東京・新橋駅前オープン。以後、都内や京都で5店舗を展開
- 12年 日系の格安航空会社(LCC)が相次いで新規参入
- 13年 訪日外国人観光客が1千万人を超える。以降、過去最高を更新
- 17~18年 2000年代に成人となったミレニアル世代向け「ザ・ミレニアルズ」が京都、渋谷に開業



「ナインアワーズ赤坂」は建築家・平田晃久氏が設計。光が差し込み、開放感あふれるつくりだ。東京都港区赤坂4丁目「ザ・ミレニアルズ渋谷」の共用スペースのキッチン付きラウンジ。調理器具や食器も完備。東京都渋谷区神南1丁目



目的地になりうる「小宇宙」

毎日毎日違うホテルに泊まった経験のある、ホテル評論家

瀧澤 信秋さん(46)



カプセルは小宇宙です。狭い空間で、各自の趣向に応じた好きな空間を作りやすい。私はブルートレインが好きなので、車窓の動画を見ます。乗っている気分が眠れます。狭い空間だからこそ出来ることです。カプセルホテルの様相が変わ

ったのは2010年ごろからで、いわゆる「進化系カプセルホテル」が登場しました。この業界は基本的にはビジネスマンが対象ですが、女性の需要が増えるような常連客が支えています。店ごとにファンやマニアがいるので、これからは生き残ると思っています。

ホテル活況の中、異業種も参入しやすく、カプセルホテルは増えています。しかし、宿泊業としての哲学をしっかりと理解していないと成功は難しい。いまや宿泊機能だけではありません。大画面テレビでシアター気分を味わえたり、露天風呂を築いたりするので、旅の目的地になり得ます。娯楽か価格かサービスか、利用者は目的に応じた選択ができます。最先端のカプセルホテルを試してみると、意外な発見ができますよ。

◇次回は「血盟団事件・園家暗殺」の予定です。

(宇津宮尚子)